

## \*ピースウィンズ・ショップから\*

一般的に焙煎したコーヒー豆を食べるとどうしても口に残ってしまうのですが、不思議なことに遠赤外線で焙煎したコーヒーはカリカリと最後までおいしく食べられます。

北海道岩見沢にある福祉施設クビトフェアさんは、コーヒーの遠赤外線焙煎機をお持ちで、施設内喫茶店でコーヒーを提供されているのですが、飲むコーヒー以外に遠赤焙煎したコーヒー豆を何かに使えないかと考えいらっしゃいました。

そこで完成したのがPWJの東ティモールのピースコーヒー豆が3粒乗ったコーヒービーンズチョコレート。

北海道のミルクを使ったチョコレートの甘さとコーヒーの苦みと香ばしさが溶け合って心地よいハーモニーが生まれ、「これは美味しい」と自信をもってご紹介したくなる逸品。

ビターとホワイトの2種類のチョコレートと、ドリップバッグ/レギュラーコーヒー(粉)が入ったセットはコーヒーをたっぷり満喫できる、コーヒー好きの方におすすめのギフトです。ちょっとしたお礼や、お土産などにもぜひご利用ください。

PWJではコーヒー豆、コーヒーを使ったお菓子などのコラボを広げていこうと考えておりますので、何か良いアイデアがありましたらぜひフェアトレード部までお知らせください。

ご注文は、<http://www.peace-winds.org/shop/>

同封のご注文用紙または  
TEL03-5213-4073、FAX03-3556-5772まで。

※ピースウィンズ・ショップの収益はPWJの支援活動に活用されています。

### PWJボランティアさんの声

現在、約200名の方がPWJボランティアとして登録されています。平日の事務所内でのお手伝いから、イベントの企画まで、様々な分野で活躍しています。



海老澤美緒子さん



松本邦夫さん



八木橋昌也さん

「リタイアしたら何かボランティア」と思って、週1回フェアトレード部のお手伝いをしています。ボランティアってむつかしい。「小さな親切、大きなお世話」にならないようにしないと長続きしないです。でもPWJのお手伝いをしてもう2年にもなるのは、PWJが「支援」をする方とされる方の気持ちがよく分かっているため、居心地がよく長続きしたのだと思います。少しでも、誰か困っている人のお役に立てれば嬉しいですね。

PWJでのボランティア・ワークに参加していくつも思うのが、スタッフや他のボランティアさんたちがみんな「気持ちよい人ばかりだな」ってことです。実は、そんなみんなに会いたくて行ってるって部分が結構大きかったです。

▼PWJボランティアのページ  
<http://www.peace-winds.org/volunteer/>



## ピースウィンズ・ニュース



支援のプロを、  
世界の現場へ

移動販売車で買物する人びと(2011年9月)

# あの現場から 1年

—東北被災地

復興支援



子どもを対象にしたイベント(2011年7月)

東北の被災地では、昨年3月11日の大震災から、曆の上では2度目の春を迎えています。仮設住宅などに移住後、初めての冬を過ごす地域の人びとは、例年よりも多い積雪と、厳しい寒さを耐え忍び、暖かい春の訪れを待ちにしています。

そうした状況の中、ピースウィンズ・ジャパン(PWJ)のスタッフは支援現場で多くの声を聞いています。「日中は車がないから、毎日時間だけは沢山あるの。だから仮設で一人住まいの人たちが集まって、お茶飲みながら小物入れを作ったりして、結構忙しくしてるのよ」と仮設での暮らしを明るく語ってくれた地域の女性。「ピースさんが支援してくれた移動販売車は、うちの店の看板。遠くは仙台まで足をのばして販売し、うちのかまぼこのおいしさをより多くの人に知ってもらいたい。この車が動かなくなるまで売って回ります」と胸を張る移動販売の店主さん。それぞれ、自分たちが置かれている「今の状況」を前向きにとらえ、人ととのつながりを大事にしながら、一步ずつ復興への歩みを続けています。

地元の経済が再興し、商店街や魚市場がにぎわいを取り戻すために、地域の人びとはどんな支援を必要としているのか。また、仮設住宅から高台等への集団移転を果たした後に、それぞれのコミュニティが進めていく新たな「まちづくり」にどのように関わっていくのか。

今後数十年の後に、東北の人びとが「みんなで協力して、あの震災後の困難を乗り越え、地元の人同士の結びつきを一層強めることができた」と思えるように、事業を展開していくことが、これからPWJの挑戦となります。PWJは、自治体や民間企業、また被災地で活動する団体と協力しつつ、「地域の復興のあるべき姿」を実現するため支援を続けていきます。

# 支援のプロを、世界の現場へ

2011年度(2011.2.1-2012.1.31)のPWJ活動一覧

## イラク

増築した学校に通う子どもたち



イラク中央政府とクルド政府の境界線上にあり、行政からの支援が遅れている地域での復興支援を続けています。教室不足や校舎の老朽化などの劣悪な学習環境を改善するため、イラク北部アクレ郡とアルビル州において小学校12校の改築事業を実施しました。

## アフガニスタン

アフガニスタンの慢性的な水不足の解消を目的として、2003年より続けてきた水資源調査事業は、現地の治安悪化を受け、事業を一時中断しています。現場の情勢を鑑みながら、水資源調査の成果の現地政府への移譲を進める予定です。

## モンゴル

PWJが運営していた児童保護施設「ホッタル」から「ペルビスト・ケアセンター」に引き取られた子どもたちへの支援を継続しています。2012年1月現在、4人がセンターで生活しています。

## タイ

2011年10月、記録的な大雨による洪水被害に対応して、バンコク北部に隣接するパトウンタニ県において、3,662世帯の自宅避難者を対象に水や米などの食料を配布しました。

物資の配布の様子



## トルコ

2011年10月23日トルコ東部で発生したマグニチュード7.2の地震に対応し、ワン市郊外の4村において487世帯の被災者に衛生用品や下着、毛布を配布しました。

女性のニーズ調査を行うPWJ牛田



## ケニア

干ばつに起因した大飢饉に対応し、2011年10月に調査チームを派遣し、ケニア北東州にて情報収集や協議をおこないました。2012年度より、国境付近のダーバップ難民キャンプでの事業を実施する予定です。



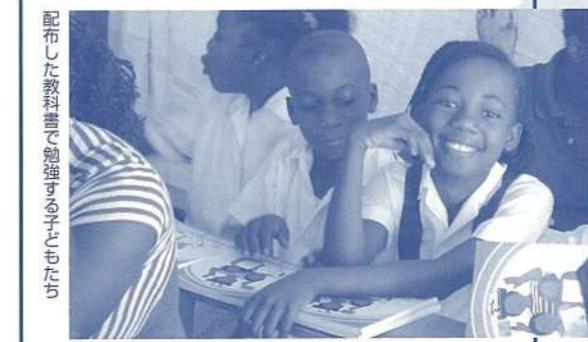
## スリランカ

2009年の内戦終結により避難民キャンプから故郷へ帰還する人びとへ、再定住支援を行っています。北部（ムラティップ県、ワヌニヤ県）では150世帯に仮設住宅の支援、696世帯に生活再建のための仕事道具を配布、小学校5校を建設しました。東部（トリンコマレ県）では、公共性の高いインフラ整備事業として溜池6箇所と水路脇道路1箇所の修復事業を実施しました。また、酪農家の収入向上支援として、公営ミルク工場へ備品を提供しました。



## ハイチ

2010年1月の震災による被災校を対象に、教育環境の再建のための支援をしています。2011年は10校の学校を建設し、再開に必要な備品や学用品などを配布しました。これまでの支援校は全23校になります。また、教員や学校支援委員会のメンバーを対象に心理社会サポート講座を開催するなど、ソフト面での支援も実施しました。



## 南スудан

2006年より続けている井戸事業の対象地域を拡大し、ジョングレイ州アコボ郡に12本、デュック郡に8本の井戸を建設し、同州の井戸の合計は151本となりました。衛生事業では公共トイレ2棟と集落用トイレ50基を建設しています。2011年の年末に、ジョングレイ州において民族対立が激化した事態を受け、孤立した住民に対して緊急支援物資を配布しました。



## 東ティモール

2003年から、コーヒー生産者の自立支援を実施しています。2011年度のコーヒー生産は、裏年や悪天候などの影響により、収穫量が減少しました。2012年は豊作が見込まれることから、安定した供給を目指して、品質管理を徹底した体制を作りたいです。



## 日本

### 東北



2011年3月11日の東日本大震災発生直後から被災地に入り活動を開始し、約160トンの緊急支援物資を配布しました。宮城県気仙沼市、同県南三陸町、岩手県大船渡市、同県陸前高田市などにおいて「仮設住宅」「経済復興」「子ども支援」の3つの分野について事業を展開しました。

### 尾道

引き続き、地方での活動基盤の拡大に取り組んでいます。カタログ販売事業「PWJ特選マルシェ」を継続し、2011年夏以降は東北の被災者支援の一環として、福島産の果物を販売しました。

### 神石高原町

2011年4月に神石高原町に開設した災害救助犬訓練センターを拠点として、救助犬育成のパイロット事業を進めています。広島県動物愛護センターから譲り受けた候補犬に加え、優れた血統をもつ犬種を新たに導入し、外部の育成団体とも協力して訓練を行ないました。高齢者の福祉施設などで活動する「セラピー犬」の育成事業にも取り組んでいます。



メディア掲載報告

- 「地球VOCE(3/2 放映予定)」の取材で藤原紀香さんがスリランカ訪問
- TOKYO FM「鈴木敏夫のジブリ汗まみれ」に、PWJ代表大西が出演予定(2/26,3/4,3/11)
- FMヨコハマ「Yokohama Social Café」にPWJ齋藤雅治が出演(3/2,3/9)

